特定非営利活動法人ブッダ基金

第 18 期（2018 年 8 月 1 日から 2019 年 7 月 31 日まで）の事業報告

医療福祉支援事業

1） 子どもの眼科検診プログラム

BCML で学校を訪問する際に、眼科検診ボランティアが同行して子どもたちの眼科検診を実施した。
器具、薬、技術的支援は Himalayan Eye Hospital Pokhara が無償で協力。昨年度は 4 回眼科検診を実施。
18 期に初めて導入したプログラムのため活動は控えめとなった。
2018 年 9 月 16 日　Prithivi Narayan School, Dhampus (NRs. 2146)
2018 年 11 月 25 日 Janajagran Basic School, Ghachowk (NRs.7069)
2019 年 1 月 14 日　Sharda Secondary School, Ghachowk (NRs. 825)
2019 年 5 月 2 日　 Lila Basic School, Pumdi (NRs. 1693)

当初プログラムの概算は 1 回あたり NRs.15,000.-、年２０回の眼科検診と重症患者の手当で合計約 NRs.300,000.-を想定していた。実際は年 4 回の活動に留まり、特に手術を要する重症患者もなかったため NRs.11,733.-となった。

教育支援事業

1）こども移動図書館プロジェクト(BCML)

第 12 期から、ネパールの山間部に位置する村や学校に本を届ける（貸し出す）プロジェクトを実施。2017 年 6 月に拠点図書館を移転し、ポカラの中心部の比較的学校から近い場所を拠点とし、日本から送った移動図書館車「にいみ号」により山間部の学校に本を届ける活動を継続。今までの蔵書パックを学校に届ける活動は参加各校年間 5 回、1 回あたりの貸し出し期間は 2 か月とし、2017 年 12 月末から”Reading Camp”を通常プログラムとして実施。従来からの活動に加え 18 期から始まった文具支援、眼科検診を引き続き実施。

＜活動内容＞
①文具支援事業
特に財政的に困窮している生徒に対し、文具の支援を行う。
最も困窮している生徒を選定し、（孤児、社会的に見捨てられている子、極貧、保護者が障害を持っている等）合計 200 人の生徒、メンバー校１０校から最低でも 20 人の生徒に配布。
各人 2 か月ごとにノート 6 冊が年 6 回提供される。また、生徒一人当たり筆記具パックを年 4 回受け取る。

2）バガワティ小学校　コーヒー園

2009 年 1 月にバガワティ小学校の運営費捻出のためにコーヒーの木を 1400 本植樹し始まったプロジェクト。NGO ヘラロ・アカデミーと協力し、学校の裏庭にコーヒー園を造成。その後、溜池増設工事、学校校舎裏の木の伐採工事（日照確保のため）などコーヒー園の環境改善に取り組んできた。「品質の維持」、「収穫量の向上」、「学校の運営費捻出」が課題であった。2017 年から収穫量は徐々に向上し、2018 年には生豆にして約 500kg、2019 年は 280kg の収穫があった。2020 年には当初目標の 1t がいよいよ現実のものとして見えてきた。学校の年間運営資金は最低 NRs.160,000 必要。
2015 年末に支援終了の予定であったが、2018 年まで延長し、金銭的な支援は終了するも、マネージメントは販路開拓が軌道に乗り、安定するまで継続して関わる事となった。18 期は収量も安定し、ネパール国内のコーヒー

需要も非常に高くネパール政府機関の National Tea and Coffee Development Board のコーヒー専門家によると、現状 14000 トンの国内需要に対し 500 トンしか生産されていない。国内消費向けに学校だけで十分運営可能となり、2019 年 8 月の UCC への輸出を以って本プロジェクトの当基金の関りは終了とする。
2019 年 2 月に UCC を訪問し、上島会長、若山部長と面会し、以前からバガワティ産の豆購入にご協力いただけるとのことから 18 期は実務者レベルに話を落とし込み、200kg を 1kg/1900 円で購入いただけることはこのプロジェクトの大きな成果である。

3)ヘラロ奨学金事業

2016 年のネパール地震により、被災した子どもの教育支援として 2018 年 4 月に本事業運営資金としてブッダ基金から NRs.100 万をヘラロ・アカデミーに奨学基金として供与した。2018 年 5 月から 2019 年 4 月まで資金運用し、年利 12%で得られた利息を奨学金として事業を実施。PJ は 2019 年 4 月から開始され、18 期は NRs.152,000.-を 20 名の最底辺カースト女児（Nepali, Pariyar, Sunar, B.K など）を学業成績で選抜して学用品の支援を行った。

（会計報告）

NIIMI HELARO FY1819 Financial Report (in NRs)

Date	Income	Expenditure	Note
	1,000,000		Foundation money paid from Buddha Foundation Japan
	120,000		interest
		60,500	Book, stationary, and bag for 20 students @NRs3,023
		67,500	Two pair dress,shoes one, sweeter one, shock two and swing cost- 20 Students @NRs3,375
		24,000	Mis expensive???
	32,000		Helaro Academy donation
TOTAL	1,152,000	152,000	
Remainder	1,000,000		

4）スポーツ普及プロジェクト

ネパールでは、体育の教師が少なく（地方の小学校は特に）、広い校庭がない学校が多いことから、スポーツに親しむ機会が乏しい。
また、ネパールでは地域が学校を運営していることを鑑み、学校と地域のつながりをより密にすることを狙い、学校を中心に地域の大人も参加するような「運動会」のようなイベントを実施したいと考えた。
18 期から、最初の事例としてバガワティ小学校で擁壁工事終了後に、初めて「運動会」を開催した。ヘラロ・アカデミー、ジャガン氏の協力により、運動会は非常に盛況だった。前日まで運動場を埋め立てた場所の石を取り除く作業が行われ、フェンスもない状態で運動会の開催が危ぶまれたが何とか当日には整備が整った。子どもたちは元気に競技や歌・踊りに励み運動場の工事の完了を祝うことができた。地域住民や保護者も運動会を見に来て最後には住民が心待ちにしていた学校で育てたコーヒー苗を配った。当初はテントや椅子をポカラ市内からレンタルする提案がプラカッシュ氏からあり、その費用として NRs.5 万程の予算が計上されていたが高すぎるため却下したところ、あるもので工夫していた。何でもお金を出すのではなくできる範囲で考えて実施してもらうことも大切だと感じた。

女性の自立支援事業

１）ヒマラヤ・クッキープロジェクト

ネパールの GDP で最も大きい割合を占める農業と観光産業。貧困の中で暮らす女性の自立支援を農業・観光と結びつけることで収益事業化を図る。ネパールの特産であるコーヒー、紅茶、ピンク岩塩、ヒマラヤ蜂蜜、ジンジャー、ヤクチーズ を用いて作ったクッキーの販売を目指す。ネパールはいわゆる、ばらまき型のお土産がほとんどなく、お土産文化があるアジア系の観光客への販売が見込める。また、カフェ文化の黎明期であるネパールには日本のような美味しいスイーツがなく、ヒマラヤ登山の入り口であり多くの海外からの観光客が訪れる我々の活動拠点のポカラはカフェ、レストラン、ホテルにも導入を見込める。
ネパールは観光産業が発達している割には旅行者が気軽な土産として購入して会社や友人に簡単に配れるものがない。
パシュミナ、ミティラー・アートやイラム紅茶などはそれぞれ素晴らしい品物だが、個人消費にはいいが、ばらまき型のお土産にはならない。購入しそうなアジア系潜在顧客は年間約 16 万人。約 13 万人いる欧米系観光客には社会的支援をアピールしストーリー性を持たせることにより販売を伸ばせることが期待できる。（産業形態が似ているインドネシア・バリ島のバロンクッキーからヒントを得た。）想定している購入しそうな潜在顧客は年間約２９万人。
ネパールの現地パートナーであるジャガン氏は観光会社を経営し、ポカラ、カトマンズにカフェも所有しているためスター・コーヒーでクッキー製作と期間限定の試験販売を実施。1 枚 NRs40 で販売し、10 個の箱入りでは NRs.570 今後の展開を引き続き模索する。浜松の喫茶店で商品化された場合バガワティーコーヒーと一緒に取り扱いたいとの引き合いもある。

JICA 応募事業

2019 年 11 月の JICA 草の根支援事業（3 年間 1000 万円）に、BCML 活動で応募する。
兼ねがね、BCML の活動維持を将来にわたりどのように継続維持していくかが課題になっていた。18 期の理事会で山口名誉理事長からいくつかの選択肢のご提案があり、全会一致で JICA 応募への方向性が決まった。詳細内容は現在策定中だが､BCML の持続可能な運営と BCML がコミュニティースクールの教育支援を行いながら、自立した運営を目指す。3 年間のパイロット事業で山村地域の子どもたちの基礎教育定着のために、BCML による読書活動を中心としたコミュニティースクールの教育支援とともに、学びが担保されるための学校と地域の財源安定化の仕組み作りをコーヒー栽培・販売を通して行うことを想定している。

海外派遣事業

1）第 33 次ネパール派遣団

・期間 2018 年 11 月 20 日～30 日
・参加人数:5 名
　加藤義一 理事長、武山克彦理事、浜松調理菓子専門学校（天野校長、中川先生)、山田（事務局）
　＜活動内容＞
　・バガワティ状況視察、活動費支払い
　・クッキーPJ 調理研修
　・取引銀行の定期預金更新
　・BCML 視察、活動資金支払い
　・ギャノダヤ学校視察

2）第 34 次ネパール派遣団

・期間 2019 年 5 月 29 日～5 月 6 日
・参加人数 5 名
　加藤義一理事長、山口名誉理事長、水野理事、形岡医師、山田清美（事務局）

＜活動内容＞
　・HBF, BCML と来期事業について会議、活動視察
　・クッキーPJ、販売用生産体制の確認、最終試作、出荷判定会
　・クッキー事業の営業活動
　・ヘラロ・アカデミーと奨学金事業について会議
　・バガワティ学校運動会＆UCC コーヒーへの輸出について
　・BCML 活動視察

その他の事業

1）アドボカシー事業

ネパールの社会問題をポカラ大学と共同研究し、当基金が実施するプロジェクトを学術的な手法により社会的インパクトの計測、クッキーPJ などを現地主要産業とむすびつけ事業化する新規ビジネスモデルの構築に関する研究により特定のケースだけでなく、国全体に面的な展開が仕組みとしてでき、政策として実施できるようアドボカシー活動を実施する。18 期は活動できず。

2）在浜松ネパール人との交流事業

浜松及び静岡県西部に在住するネパール人と共にイベント等を行い、ネパールやブッダ基金を広く知っていただくことを目指す。また、ネパール人同士のつながりを広げ、貧困や孤立状態の人を手助けできるきっかけとしたい。18 期は活動できず。

以上